

皆満寺通信

第26号

法語

過ぎ去りし日は私の深さであり

来たる日は私の広さとなる

今このひとときを丁寧生きよう

この言葉はネット上のコミュニティ「掲示板の法語」で目にとまったものです。過ごしてきた日々が自分の深さで、これからが広さになっていくから今を丁寧に。そんなところでしょうか。真っ先に「ぼーっと生きてんじゃねーよ」っていう最近テレビで人気なキャラクターの言葉を思い浮かべました。

蓮如上人の言葉に「年の初めを祝えども南無阿弥陀仏のころ忘るな」というものがあります。私の身に届いた仏の願いを忘れて生きてはならないという言葉です。過去を振り返って見たところ浅かったらどうだろう。その先の広さは狭いのだろうか。いや、そうはではないでしょう。浅かったとしても、一見何も見えないとしても、今ここから歩むほかないし、今ここからの歩みが「浅い」と感じさせたことに深い意味をもたらしてくれるのではないかと思います。浅い深いにとらわれず、今ここを大切に歩いていくとき、先は広がり、過去は大きな深まりを持つのではないのでしょうか。

彼岸会のご案内

3月21日(木) 春分の日
午前10時～正午
仏教讃歌ミニコンサート

春のお彼岸です。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように春の気配が感じられるようになる頃ですね。皆さまはお彼岸をどのようにお過ごしになりますか？

お彼岸は春秋ともにお中日を中心に前後の三日間、あわせて7日間のことをいいます。お彼岸の入りにお内仏を荘厳し、お中日にはお寺で一緒に正信偈をお勤めしましょう。

秋のお彼岸同様、さんかの会による仏教賛歌のミニコンサートを企画しています。お楽しみに。

皆さまのお参りをお待ちしております

お内仏のお荘厳 お彼岸編

お内仏(お仏壇)のお荘厳(お飾り)はご法事やお盆の時と同様になります。お荘厳を整えてお彼岸をお迎え下さい。

☐チェックシートの的に使ってください

☐①三具足(燭台、香炉、花瓶)

☐②お仏供

☐③お華瓶(檜) ※あれば

※ここまでは平生も整えます

☐④打敷

☐⑤朱蝋

☐⑥香

☐⑦お華束

※打敷は平生には用いません。

報恩講円成のご報告

昨秋の報恩講は、ご門徒の皆さまのご支援を賜り、滞りなく円成することが出来ました。偏に皆さまのご理解とご支援の賜物と心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

報恩講は真宗門徒にとって何よりも大切な御仏事として丁寧に継承されてまいりました。時代の移り変わりの中で伝統されてきたまを継承していくことは年々難しくなっていますが、その伝統の上にありながら、時代に則した報恩講の形がきっとあるはずです。そんな報恩講をこれからもご門徒の皆さまと創造し、お勤めさせていただきたいと願っています。

今年も例年どおり11月の13日(水) 14日(木)にお勤めいたします。秋にあらためてご案内、御願い申し上げますので、よろしく御願いいたします。



御伝鈔拝読の様子

まめ知識

お文などの拝読文は全て内側(横)を向いて拝読します。ご門徒のお宅でのご法事の際に僧侶が横を向いてお文を読むことを不思議に思われたことありませんか？それは拝読者という伝え手を担うと同時にご門徒と共に教えを聞き、教えをいただく側に居るため

す。僕はこの作法をととても大切に思っています。ここに真宗の特徴が出ているように思うからです。

報恩の仏事(2)

お取り越し ご家庭での報恩講

真宗の仏事最大の特徴であり最も重要なことは、真宗に於いて全ての仏事は「報恩の仏事」であるということに尽きます。そしてその中で何より大切に相続されてきたのが「報恩講」です。

その報恩講の伝統の中で御本山の報恩講をお待ち受けする形でそれぞれの場所で勤められていく報恩講、とりわけご門徒のご自宅で勤められてきた報恩講を「お取り越し」と呼びます。この辺りではあまり馴染みのある言葉ではないかも知れませんね。

報恩講は本願寺第3代、親鸞聖人のお孫さんに当たる覚如上人が報恩講私記という書物を著し、その中に明確にその意図を述べ始めました。それは「一つには真宗興行の徳を讃じ、二つには本願相応の徳を嘆じ、三つには滅後利益の徳を述べ」と、三つの徳を揚げて、本願念仏を勧めるためであると。その伝統が御本山本願寺における一大御仏事として発展し、お寺だけに止まらず、その地の門徒衆による「お講」や組、それぞれのお宅で勤められるようになっていきました。

近年、ご自宅での報恩講「お取り越し」は減退の一途を辿っていますが、年に一度、真宗門徒にとって最も大切なお勤めをご自宅のお仏間、お内仏でお勤めしませんか？お祥月や年忌法要などの際に一緒にお勤めいただいても良いと思います。



伝統に沿い、御真影の前にはお餅で作ったお華束、中央にお仏供、そしてろうそくはイカリ型の朱ろうそくが荘厳されています。

ご門徒宅お内仏でのお取り越し

仏事メモ(4) ろうそく

上の写真の様に、仏事で用いるろうそくは「イカリ型の朱ろうそく（和ろうそく）」です。真宗独特の習慣の様で他の宗派で用いられることは無い様ですが、大切に相続されてきた伝統の一つです。普段は立そく（ろうそくを立てる）せずに、木ろうという木製のろうそくを象ったものを燭台に置きますが、仏事の際には必ず立そくします。その際卓には打敷を掛け、用いるのは先述したイカリ型の朱ろうそくです。あくまで阿弥陀さまのお浄土を表現するお荘厳としてのお道具ですので出来る限りご用意いただきたいと思います。フツウのろうそくはお給仕（お支度）用とお心得ください。



木ろう

坊守(おくり)さん通信

7月20日（土）、ゆめすけさんにご協力をいただいて**第7回サマー寺子屋**を開催致します。一からそばを作っていく楽しい会です。まずは本堂でみんなでお勤めをします。その後で前半後半チームに別れてそばを打っていきます。お待ちの方には腕輪念珠作りなど毎年お楽しみを用意しています。そば粉から自分で作ったそばはお子さんにも大好評で「美味しい美味しい」と食べる子供達の姿を見るのが私の毎年の楽しみです。またゆめすけさんからも毎年多くの方々がお手伝いに来て下さり、子供達にも優しく指導して下さいます。そんなゆめすけの皆さんに毎年お会いできるのも楽しみです。既に何人かお申込みいただいております。毎年16組の親子限定で開催しておりますのでご興味のある方はお寺までお問い合わせください。



カラフルなお念珠たち
子どもだけでなく大人も楽しめますよ

諸案内

お寺での催し

～さんかの会～

毎月第2, 第4金曜日

午後1時半から4時頃まで

今年からより讃歌を楽しむ会として行っていきます。お茶とお菓子とおしゃべりを楽しむ会でもあります。歌うのが好きな方、おしゃべり楽しみたい方、お気軽にお越し下さい。

～皆画の会～

毎月第1金曜日

午後1時半から4時頃まで

さんかの会から絵と仏語を楽しむ会が独立しました。皆満寺で気軽に絵を画いて楽しもうという趣旨で「皆画(かい)の会」と呼ぶことになりました。こちらもお茶とお菓子とおしゃべりを楽しむ素敵な会です。塗り絵や折り紙もすることになりそうですよ。



こんなワークがあるかも!?

さんかの会、皆画の会共に発案し、中心に進めていただいているのは御門徒方です。どなた様もお気軽にご参加いただけます。一度覗いてみませんか?

どちらも1回100円(おかし代)の会費制で運営しています。

満たんヨガ

毎月最終月曜日

午後7時半から9時まで

呼吸を整えからだを心をはぐすヨガ

講師 新美成果さん

参加費 1,000円(高校生以上)

※中学生以下のお子さま一人は無料。

二人以上1,000円(何人でも)

但し保護者同伴のこと

動きやすい服装でお越し下さい。

貸し出し用のヨガマットあります。

【後書き】

▼第25号紙面仏事メモ(3)の華瓶(けびょう)の字が瓶瓶となっていました。訂正してお詫び申し上げます。何事も丁寧に進めていかなければいけませんね。▼恩師の古希を祝うため、また先生の指揮で音楽を奏でるために、20年のブランクを経てまた楽器を吹き始めて一年半が経った。5月が本番。ご和讃に宮商和して自然なりという言葉がある。宮と商は和音にならず不協和音になる音、でも和み、解け合い、響き合う世界がある。そんな和と輪を願わずには居られないこの頃である。(住職)

「皆満寺通信」 第26号

2019年2月1日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町下門137

真宗大谷派 皆満寺

住職 永尾圭吾

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail jinguzan-137@kaimanji.or.jp